

WASTE TO ART FAMILY

WASTE TO ART FAMILY · 日本・沖縄

ANWS

A NEW WAY OF SEEING WORKSHOP

Before it becomes waste, it is still an idea.

ゴミになる前は、まだアイデアのまま。

ふつうの物にも、まだ可能性がある。自分の選び方には意味がある。それを子どもが自分で見つける場所です。



やあ、ぼく Puzz。
のぞいてみる？

カタログ · 9〜12歳 · 日本・沖縄

45〜60分 / 2〜8名 / こちらから伺います / 進行は英語

A New Way of Seeing Workshop

We don't teach crafts. We teach a new way of seeing.

教えているのは工作ではありません。新しい物の見方です。

ANWS WORKSHOP — PURPOSE

ANWS Workshop is a creative learning program designed to help children see everyday things from different perspectives, discover new possibilities, and gain hands-on experience turning their own ideas into real creations.

ANWS Workshop は、身のまわりのふつうの物を違う角度から見て、新しい可能性を見つけ、自分の考えを実際の形にするところまでを手で経験する。そのための創造的な学びのプログラムです。

5つのステップ、60分

形はいつも同じです。変わるのは材料だけ。

0〜10分 — **1 See 見る**

ゴミとは何だろう。なぜ物はゴミになるのだろう。必要以上に持っているから。あるいは、買ったものが長く使えなかったから。接着剤ではなく、選ぶという話から始めます。

10〜25分 — **2 Discover 見つける**

新聞紙、木の端材、ボトルとキャップ。ぜんぶ机に出します。そして誰かが道具を持つ前に、まずよく見ます。

「これは、もう一度使えないだろうか？　ほかに何になれるだろう？」

25〜45分 — **3 Create 作る**

手を動かす時間です。キャップや新聞紙、雑誌の紙が、役に立つものやきれいなものに変わります。自分のために、あるいは誰かに贈るために。**ここに、正解も間違いもありません。**

45〜55分 — **4 Share 分かち合う**

ひとりずつ、つくったものをみんなに見せます。何をつくった？　何を再利用した？　そして、いちばん大事な問い。なぜ、その案を選んだの？

55〜60分 — **5 Connect つなぐ**

みんなで持っておく写真を1枚。そして、次は何を違う目で見てみたいか。少しだけ話します。

問いはどこにあるか

ステップ1と2は、三つの問いのはじめの二つを、その部屋で声に出してたずねる時間です。なぜゴミは生まれるのだろう？　これは、もう一度使えないだろうか？　3つめはハサミと糊では答えが出ないので、そのまま家に持ち帰ってもらいます。

5つのステップの下にあるのは、結局ひとつの問いだけです。

“What can I create with this?”

これで何が作れる？

WAF とは？

Waste to Art Family — 日本・沖縄の教育プロジェクトです。

WAF is not a craft class.
Making art is only the method.

WAF は工作教室ではない。作ることは、方法にすぎない。

毎日使っている物を、これまでとは違う目で見る。WAF がしているのは、そのきっかけをつくることです。古新聞、ペットボトルのキャップ。どこにでもある材料で自分のものをつくるうちに、その物にはまだ誰も気づいていない価値が残っていたと知っていきます。

ただ、作品そのものが目的ではありません。いちばん持続可能な選択は、何かがゴミになる**前**に始まっています。

何を考えるべきかを教えることはしません。子どもが自分で探して、つくって、自分でその考えにたどり着く。そうなるように60分を組み立てています。

手を動かしているうちに、子どもは自分から三つの問いを持ちはじめます。

1. なぜゴミは生まれるのだろう？
2. これは、もう一度使えないだろうか？
3. もっと長く使えるものを選べないだろうか？

わたしたちの考え

WAF is not simply about making art from discarded materials. It is about inspiring children to make thoughtful choices **before** something becomes waste.

WAF は、捨てられた素材から作品をつくることではありません。何かがゴミになる前に、子どもが考えて選べるようになること。それが WAF です。



いっしょに見つけよう！



きのうの新聞を、細く切って。



同じ紙の、数時間後。

Puzz に会う

小さな友だち。伝えていることは、小さくありません。



こんにちは、Puzz です。

ぼくはゴミからつくられたんだと、多くの人が思っています。
でも、ほんとうはちょっと違います。

ぼくが生まれたのは、誰かがふつうの物を
違う目で見ようと決めたからです。

何かがゴミになる前には、まだ可能性が残っている。
WAF が信じているのは、そのことです。

だから、いつもたずねている問いが、ひとつだけあります…

> “What can I create with this?”
>
> **これで何が作れる？**

いっしょに、新しい可能性を見つけよう！



いまでは、たくさんいます。
同じ子は、ふたりもいません。
ときどき、子どもたちがぼくらを描いてくれます。



なぜ WAF なのか

どの子どもにも、世界を違う目で見る力があるからです。

毎日、数えきれないほどの物が「もう使えない」と判断されて捨てられています。けれど何かがゴミになる前には、それはまだアイデアになれます。

新聞紙がブレスレットに、ペットボトルのキャップがネックレスに変わるとき、子どもがつくっているのは作品だけではありません。その物が本来持っていた役目の先を見て、新しい可能性を見つける。その練習をしています。

この考え方は、創造力と、問題を解く力と、想像する力を育てます。どれも、これから先ずっとその子を助けるものです。

WAF が教えているのは、何をつくるかではありません。どう考えるかです。

子どもがこう問いはじめたら

「これ、捨てちゃっていいのかな？」

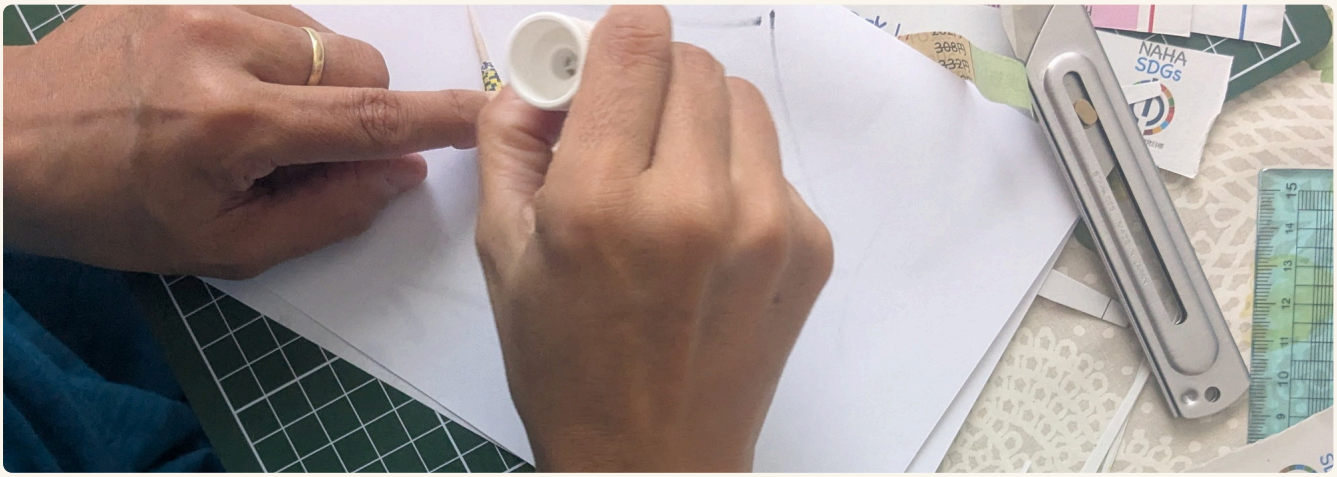
もう、工作よりずっと大切なことを学んでいます。その小さな見方の変化が、一生つづく好奇心と、つくる力と、まわりの世界を大事にする気持ちにつながっていきます。

どんな物にも、もうひとつの可能性がある。



信じていること

- 創造力は、好奇心から始まる。
- 身のまわりの多くの物に、まだ価値が残っている。
- どの子どもにも、何かを変える力がある。
- 考えて選べば、ゴミは減る。
- 小さな行動が、一生の習慣になる。



紙を一本ずつ、一巻きずつ。ここから始まります。

ワークショップは、二つ

どちらのワークショップも、手順ではなく問いから始まります。





CREATIVE 1

「これは、もう一度使えないだろうか？」

古新聞から、きれいなアクセサリーへ

紙 → ビーズ → アクセサリー

9〜12歳　45〜60分　火や熱を使わない

古新聞を細長く切り、巻いて色とりどりのビーズにします。それを自分で組んで、ブレスレット・ネックレス・キーホルダーにして持ち帰ります。

持ち帰るもの

- ♻️ 捨てるのではなく、もう一度使えること。
- 🎨 自分で考えてつくる楽しさ。
- 💚 どんな物にも、もう一度の出番があること。





CREATIVE 2

「ほかに、何になれるだろう？」

ペットボトルを、身につける作品へ

ボトルとキャップ → 色の板 → 身につける作品

9〜12歳　45〜60分　熱を使う工程 — 講師のみ

捨てられるペットボトルとキャップを溶かして、色の板にします。それを子どもたちが切って、形にしていきます。できあがるのは、その子だけのアクセサリーです。

持ち帰るもの

- ♻️ プラスチックも、意味のあるものになれること。
- 🎨 自分のアクセサリーを、自分で考えること。
- 💚 小さな行動が、大きな変化をつくること。

安全について

プラスチックにアイロンをかけるような熱を使う工程は、**必ず講師が行い、子どもには触らせません。**ハサミを使うときは、大人がそばにいます。Creative 2 は会場にコンセントが必要です。



どっちから
やってみる？

WAF Discovery Workshop

Creative 1・2 のあとに進む回です。わたしたちが着く前に始まります。

この回だけは、材料を持って行きません。持ってくるのは、みなさんです。

集まる数日前に、ひとつだけお願いをします。家の中を見わたして、もうゴミ箱に向かっていたものを探してみてください。そして、それはまだ何かになれるだろうかと考えてみてください。

びん。リボン。ボトルのキャップ。
ひとつだけのボタン。
もう誰も着られなくなったTシャツ。

それが何になるのかは、誰も前もって決めません。わたしたちも決めません。当日、ぜんぶ机に出して、みんなが持ってきたものを見ます。**これは何だろう？　何になれるだろう？　これと合いそうなものを持っている人は？**　そこから、決めながらつくっていきます。子どもと大人がいっしょに声に出して考えるので、答えは毎回ちがいます。

なぜ、こうしているのか

ほかのワークショップは、わたしたちが着いたときに始まります。この回が始まるのは、誰かが家でゴミ箱の前に立って、手が止まった瞬間です。

三つの問いの2つめ、これは、もう一度使えないだろうか？　この答えは、会う何日も前に、台所で出ています。

その手が止まった瞬間は、ワークショップへの一歩ではありません。それがワークショップです。

捨てそうになったものは、何？



当日までの流れ

1. **家の中を見わたす。**当日までの数日で、ゴミ箱に向かっていたものを1つか2つ見つけます。
2. **そのまま持ってくる。**準備は要りません。洗って乾かしてあれば十分です。
3. **いっしょにつくる。**道具と接着剤、そして進め方はこちらで持って行きます。アイデアは、机の上から出てきます。

向いているのは　二回目以降のグループ · 年齢のまじった集まり · ご家族や大人の方 · 学校やクラブ

所要時間と費用は、グループと、みなさんが持ってくるものによって変わります。ご連絡のときにおたずねください。



もう捨てられる途中だったものたち。



何になるのかは、まだ誰も知りません。

07 — ワークショップのあと

家に持って帰るもの

ブレスレットは、小さいほうのおみやげです。

ゴミを減らす第一歩は、毎日の小さな選択にあります。

60分のあいだに、子どもは誰にも言われないまま、自分で気づいていきます。

- なぜゴミが生まれるのか。
- 身のまわりの多くの材料が、思いがけない形でもう一度使えること。
- できるかぎり、丈夫で長く使えるものを選ぶこと。
- 捨てる前に、もう一度使えないかを考えること。

どれも単純なことです。けれど、一生つづく習慣への最初の一歩になります。

家に持ち帰る問い

三つの問いのうち二つは、その部屋で答えが出ます。新聞紙を手にした子どもは、たしかにもう一度使えると自分で確かめられます。

3つめは、ハサミと糊では答えが出ません。次にお店で何かを選ぶ日まで、そのまま待っています。

「もっと長く使えるものを選べないだろうか？」

あしたは何を
違う目で見てみる？



The most sustainable choice
begins long before something is thrown away.

いちばん持続可能な選択は、それが捨てられるずっと前に始まっている。



浜辺と、袋ひとつ、そして散歩についてきた Puzz。習慣は、外にも出ていきます。

とっておいたきれはし



これ、もとは
きのうの新聞です。





同じものは、
ふたつとありません。



入った！



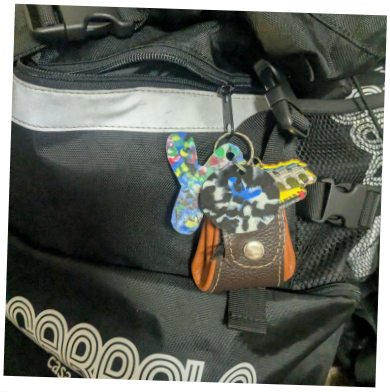
ぜんぶ、手で巻いています。



もとはボトル。



カードが付いてきます。







見て、こんなのが
できたんだ！

09 — ご案内

いっしょに見つけにいきませんか

つくって、学んで、いっしょに育っていく。

ご家族、幼稚園・保育園、学校、図書館、地域の集まり。どこであっても、A New Way of Seeing Workshop をその子どもたちのところへ持って行けたら、とてもうれしいです。

沖縄本島ならどこへでも伺います。必要なものはぜんぶ持って行くので、みなさんに用意していただくのは、子どもたちだけです。

ワークショップの概要

場所	沖縄本島ならどこへでも伺います。出張費はいただきません。**基地内のイベントも歓迎します。**
日時	平日の午後と、週末の午前。日程はご相談しながら決めます。
所要時間	45〜60分ほど（Creative）
対象	9〜12歳、2〜8名
言語	進行は英語

持って行くもの

- ✓ ワークショップの材料すべて
- ✓ 英語での進行と、手順の案内
- ✓ Puzz の物語と、その裏にある問い
- ✓ どのステップにも入れてある、環境の学び
- ✓ あとまで覚えている、ひとつの午後

ご用意いただけると助かるもの

- ✓ 机と椅子
- ✓ 手を洗える流し
- ✓ コンセント（Creative 2 のみ）

それだけです。ほかはぜんぶ、こちらで持って行きます。

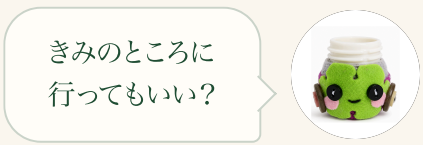
費用

2名	お一人 3,800円
3〜5名	お一人 3,000円
6〜8名	お一人 2,700円

材料費はすべて含みます。出張費はいただきません。お支払いは PayPal です。

こんなところへ伺っています

幼稚園・保育園 / 学校 / 図書館 / 家族向けイベント / 地域のイベント / 社内の家族向け行事 / お祭り / 基地内のイベント



10 — お問い合わせ

ひとこと送ってみてください

グループのことを教えてください。あとは、こちらで進めます。

メール

wastetoartfamily@gmail.com

INSTAGRAM

@wastetoartfamily

ウェブサイト

waf-official.com

予約
フォーム

INSTAGRAM
DM

メール
する

Instagram かメールでメッセージを送るか、予約フォームの QR を読み取ってください。日本語でも英語でも構いません（予約フォームの設問は英語です）。

進め方

1. **ご連絡ください。**ご希望の日程、子どもの人数と年齢、どこで開きたいか。
2. **細かいところを決めます。**Creative か Discovery か。時間、そして会場で必要なもの。
3. **ぜんぶ持って伺います。**材料はすべて含みます。机と椅子、流しだけご用意ください。



またね！





Puzz No.001。手のひらに乗る大きさで、連れて歩けるようにつくってあります。



どの回も、ひとつの問いから始まります

“What can I create with this?”

これで何が作れる？

糊が乾いたずっとあとまで、
お子さんがこの問いを持ち続けてくれますように。

#WAFofficial #WasteToArtFamily #TrashToArt

waf-official.com · wastetoartfamily@gmail.com · @wastetoartfamily

A New Way of Seeing Workshop

WAF — Waste to Art Family · 日本・沖縄 那覇